からすとたにし　　山口県

とんとんむかしがあったんといや

むかし、あるところに、たにしが一匹いました。

ある日のこと、たにしが、田んぼのあぜでひなたぼっこをしていると、からすが下りて来て、たにしをくわえて飛びあがりました。

たにしは、「えらいことになった」と思いましたが、「からすは悪がしこいから、助けてくれといっても助けてくれないだろう」と思って、こういいました。

「からすどん、からすどん。おまえは、いつもいい声で鳴くなあ。いっそ食われてしまうなら、最後にもういっぺん鳴き声を聞かせてくれないか」

からすは得意(とくい)げに、かあかあと鳴きました。すると、口が開(あ)いて、くわえていたたにしが口からころげ出ました。たにしは、田んぼに落ちて助かったということです。

おしまい

村上郁再話

資料『周防大島昔話集』宮本常一／河出書房新社